

平成20(2008)12月13日 第113号

学校だより

いよいよ来週の土曜日が2008年最後の登校日になります。家庭の都合で20日に登校できない人は、本日、冬休みの宿題を受け取っています。今年度の前期後半(8月・9月)や後期前半(10月以降)に学習した内容を、復習ができるように出しています。

計画的に学習を進めてください。



補習校入学前の大切な1年 ～幼稚園教育で思うこと(2)～

先月末に Bear Creek Park で実施された、幼稚園部親子遠足の雑感の続きになります。

借用校舎の設備や安全面の配慮から、教室の中で活動することが日本より多い幼児です。それだけに、幼稚園の先生は、幼児の興味や関心が戸外にも向くように気をつけています。ふだんは小学部より早めに食事をした後、中庭でたっぷりと体を動かすことができます。



【先生のお話をよく聞いています】

親子遠足では、“緑の多い自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶことにより、体の諸機能の発達が促されていくのだろうなあ”と改めて感じました。昨年から実施しているこの行事の目的は、十分に達成されており、来年度以降も欠かすことができない幼稚園行事の一つであるように思いました。

さて、先生の話に注意して聞き、指示通りに動くことができるようになることは、集団生活をしていく上で必要不可欠であり、補習校生活の基盤になります。小学校入学にあたり、ひらがなが読めたり、覚えている物の名前が言えたりすることは大切なことですが、学校のルールを守り、安全に生活でき、国語科などの学習を進めていく上で、“人の話を聞く”とか“指示がわかる”ことがもっと大切だと思

います。

ヒューストン日本語補習校

Japanese Educational Institute of Houston

12651 Briar Forest Drive, Suite 105, Houston, Texas 77077

Tel. 281-531-6743 / Fax. 281-531-6795 (事務局 火～金曜日)

Tel. / Fax. 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)

E-mail: jlssh@jeihouston.org Home Page: www.jeihouston.org

ます。補習校の幼稚園教育では、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うことが大きなねらいとなります。

補習校の年長クラスは、日本の幼稚園のそれとは、通う目的が少々違い、入学のための準備期間であるにとらえているご家庭もあります。補習校小学部入学前のもとても大切な1年であると言えます。

「聞き上手」になってほしい(1) ～五感を働かせて活動する幼児～

補習校の幼稚園生活では、話を聞く場面がたくさんあります。例えば、教師の説明を聞いたり、教師が絵本を読むのを聞いたり、遊びの中で友達の要求や考えを聞いたりすることなど。教室を訪れた校長から話や指示を聞くこともあります。

このような場面で幼児が話を聞くときは、初めから静かに聞いたり、話の内容のすべてを注目して聞いたりしては限りません。特に5歳児は、話を聞いていても、自分に興味のある事柄しか注目しないこともあるし、関心の高いことが話されるとすぐに反応し、静かにしていられなくなることがあります。話をきちんと聞いていないために、友達ともめてけんかになることもあります。

幼児は、このような話を聞くという様々な体験を積み重ねることを通して、相手が何を伝えようとしているのかという、話の内容に注意して話が聞けるようになっていくのだと思います。



【先生の指示がよく聞けていました】

話は変わります。言語環境が日本語でない家庭の幼児がいます。父母どちらかが日本人であるため、一部は日本語が使われますが、生活言語のほとんどは日本語ではありません。

ある時、その幼児の様子を見てみると、日本から渡米してまだ日が浅い現地校に通っている日本人児童と重なってしまいました。先生のお話を一生懸命

聞いているのです。顔をあげ、話を目で聞いているのです。先生のお話が終わり、指示が出ました。他の幼児が作業に取りかかると、その子は、まず、周りを見て、隣の子に少し聞いて、その上で同じように作業を進めていきました。“生活力がある子だなあ、なんて賢いのだろう。”と感心しました。匂いをかい



【指示を聞いた後のお弁当の時間】

だり、味を確認したりすることは活動の中で少ないと思いますが、まさに五感を働かせながら授業を受けている様子を目にし、“聞き上手というのは、聞いて行動に移せることなのか！”と再度、その子に感心するとともに、その子から“聞き上手”について教えられ、考えさせられました。

その幼児にとってみれば、一連の行動は、自分が所属する小さな幼稚園社会の中で生活していく術であるわけです。その子を支えるお父さんやお母さんからは、「先生の話をしっかり聞きなさい。」と常日頃からアドバイスされていることでしょう。

今はすっかり英語に慣れ、現地校に適應できている渡米してきた人も、きっと最初の頃はその幼児のように、「聞くこと」に集中し、周りを注意深く観察しながら学校生活を送っていたことと思います。

話を「聞くこと」で、次の活動が始まります。それは「話すこと」であり、そして「読むこと」「書くこと」にも結びついていきます。「聞くこと」は言語活動の基になっていると言っても過言ではないと私は思います。「聞き上手」になって、より活発に活動できる幼児から児童へ、児童から生徒、大人へと成長してほしいと願っています。

次回(2)は、もう一人の「聞き上手」だった子のことを紹介します。



SBISD事務所の クリスマス ツリーに 飾り付けをしました

12月3日(水)は借用校舎を管轄する Spring Branch Independent School District (スプリング ブランチ教育学区)の事務所のクリスマス ツリーにオーナメントを飾ってきました。オーナメントはほとんどが鶴ですが、それらとともに扇や孔雀なども飾りました。色とりどりの和紙、金銀で作られた鶴は、木の緑に映え、まるで飛んでいるかのように見えます。

見事なクリスマス ツリーができあがりました。

毎週、Westchester Academy For International Studies を借りて子どもたちが学習できているのは、SBISD 関係者と補習校との関係が良好だからです。いい関係を保つためには、私たち日本人や日本のことについて理解してもらわなければなりません。



アメリカ合衆国の先生が、毎年8月に日本の学校を視察するプログラムがあり、補習校から、毎年そのプログラムに SBISD の先生を推薦しています。教育長のダンカン氏も5年前に日本の学校を視察したり、静岡県でホームステイしたりしたことを、以前懐かしそうに話をしてくれました。教育長室には、自筆の「進む」という字が壁に掛けられています。一昨年は、Rummel Creek El.の校長先生に参加してもらい、昨年のオープンスクールで、参加された現地校の先生に視察報告をしていただきました。

今回のボランティアは、数年のブランクがあったと聞いていますが、15年以上続く恒例行事となっています。クリスマス ツリーは SBISD 事務所を訪れる人たちにとっても喜ばれていると聞いています。

PTA 役員の方の代表の皆さまには、早朝から参加していただき、ありがとうございました。

◆パトロール当番予定表12月20日◆

	学年	順位	児童生徒氏名
★AM1	リーダー	小4	16 前田 健斗
	2		17 リンズ 健太
	3		18 我妻 航汰
	4		19 伊藤 雅来
	5		20 矢部 江理
	6		21 カービー みどり
	7		22 野口 愛実
★PM1	リーダー		23 村上 弘樹
	2		24 佐野 大輔
	3		25 白 昇
	4		26 田口 栞
	5		27 秋山 陽
	6		28 三村 弥久歩
	7		29 西村 有梨沙



<転出> 山戸映里奈さん(小1B)

日本のお友だちに、補習校で学習したことを教えてあげてね。お元気で、さようなら。